

第1回 中心市街地グランドデザイン戦略会議 議事録

1 開催日時

令和元年 12 月 2 日（月） 14 時 30 分～16 時 30 分

2 開催場所

小牧市役所 本庁舎 6 階 601 会議室

3 出席者

委員（名簿順）

山下史守朗 小牧市長

大塚 俊幸 中部大学教授

生田 京子 名城大学教授

鶴田 佳子 岐阜工業高等専門学校教授

名和 千博 小牧商工会議所地域活力向上委員会委員長

加藤 紀文 小牧にぎわい隊理事

ファシリテーター 水野 嗣則

事務局

都市政策部 都市政策部長 前田勝利

都市政策部 都市計画課長 永井浩仁

都市政策部 都市計画課 都市計画係長 馬庭貴彦

都市政策部 都市計画課 都市計画係主査 赤堀真耶

都市政策部 都市計画課 都市計画係技師 白木裕之

傍聴者 3 名

4 会議内容

1 議題

（1）会議の公開について

（2）中心市街地の現況について

（3）その他

■議事録

【都市政策部長】

本日は大変お忙しい中、またお足元が悪い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本会議の進行役を務めさせていただきます、都市政策部長の前田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ただいまより第1回中心市街地グランドデザイン戦略会議を開催させていただきます。
本日の日程につきましては、お手元の会議次第のとおりであります。
それでは初めに、山下小牧市長からあいさつを申し上げます。

【山下市長】

皆さん、こんにちは。小牧市長の山下でございます。よろしくお願いします。

本日は、中心市街地グランドデザイン戦略会議ということで、開催をさせていただくにあたりまして、委員の就任につきまして、それぞれ御快諾をいただきましたこと、ご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

中心市街地のグランドデザイン戦略会議でありますけれども、資料の方にもございますように、小牧市におきまして、中心市街地、いわゆる名鉄小牧線の小牧駅から小牧山までの間、そのエリアを指しています。長年において、小牧において過去の再開発が中途の形でそのままの状況で続いてまいりました。大体30数年だと思います。

そうした中で、今改めて駅前の新図書館の建設、あるいは再開発ビルラピオの再生、そして駅周辺の再整備、県の方ではピーチライナー駅舎の取り壊し工事が始まっている状況であります。市としては、新図書館やラピオ、更には駅周辺整備、この三点セットで進めながら中心市街地のこれからの活性化に向けての再スタートにしようということを目指しているところでございます。中心市街地の状況も私が就任した9年で随分変わってきているように思いますので、さらに、これからの中心市街地の大きな将来像を描いていくべき時期に来ているという風に考えております。

コンパクトシティというようなことも、今言われており、コンパクトシティプラスネットワークが言われているわけではありますが、そうした状況も、少子高齢化、人口減少など、様々な社会変化の中で、小牧市としても目指しながら進めていかなければならないと考えております。

国においては、平成18年に「市街地の整備改善」と「商業等の活性化」に加えて、「街なか居住」や「都市福利施設の整備」等の支援措置を追加した「中心市街地の活性化に関する法律」が施行されているところであります。平成26年には、人口減少、高齢化が進む中で、高齢者をはじめ多くの人々にとって暮らしやすいまちとなるよう、様々な機能がコンパクトに集積した、歩いて暮らせるまちづくりを実現する「改正都市再生特別措置法」が施行されているところであります。

こうした中で、小牧市においても、コンパクトシティの形成を図りながら、魅力と活力のある中心市街地の将来像を検討するために必要な議論を行ってまいりたいということで、本会議を設置させていただいているところでございます。

これまで、市政における重要課題につきましては、市政戦略本部で私が本部長を務めているわけではありますが、市政戦略会議を設置して議論を深めてまいりました。企業立地の戦略会議や、高齢者福祉医療の戦略会議や、あるいは自治体経営改革の戦略会議などを置いてまいりました。

現在は、この中心市街地グランドデザインの戦略会議とある意味対をなす形で、東部のまちづくりの戦略会議を開催させていただいているところでございます。この会議は何かを決定していくという性質のものではございませんので、これからの市として、そうしたものを描いていく中で、専門家の皆様のご経験、ご知見をいただきながら、議論を深めていく中で、市としてのグランドデザインを描くということにつなげていきたい。そういう位置づけで置かせていただいている会議体でございます。

シナリオを全く用意しないで、皆様の議論の中で、一緒に作り上げていくような会議体でござい

ますので、ぜひ遠慮なく皆様方にはご発言をいただければありがたいと思っております。有意義な会議にさせていただきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いを申し上げます。

それでは、中心市街地のグランドデザイン戦略会議ということで、本日から一応4回と書いてございますが、必要に応じて進め方についてはご相談をしながら進めていければと思います。

以上で最初の挨拶とさせていただきます。大変お世話になりますが、どうかよろしくお願いします。

【都市政策部長】

続きまして、本日は第1回目でありますので、委員の紹介をさせていただきます。

お手元の資料1、委員名簿をご覧ください。委員のお名前をお呼びいたしますので、ご起立いただき、一言いただきたいと思います。

中部大学教授、大塚 俊幸様。

【大塚委員】

中部大学の大塚と申します。よろしくお願いいたします。

人文学部に所属しておりまして、専門は、都市地理学で、都市の成長とか衰退とか、都市を研究対象としております。実は、以前は中心市街地の再生問題をずっと研究していて、今はどちらかというと郊外のほうにも目を向けています。この2つは、両方対で考えていかないといけないと思って研究しているところです。

どうぞよろしくお願いいたします。

【都市政策部長】

名城大学教授、生田 京子様。

【生田委員】

生田と申します。

私は建築学科で教えておりまして、建築計画が専門になっております。

よろしくお願いいたします。

【都市政策部長】

岐阜工業高等専門学校教授、鶴田 佳子様。

【鶴田委員】

岐阜高専の鶴田でございます。よろしくお願いいたします。

私は建築学科に所属しているんですが、専門は都市計画でございます。今ちょうど都市計画マスタープラン等が改定時期になっていまして、3つ4つ都計審の審議会や策定委員会で各市へ行かせていただいたり、岐阜中心ですが、最近は愛知県も少し関わらせていただいています。

私自身は岐阜に勤めて30年近くになるんですけれども、出身は愛知県春日井市ですので、小牧市は非常に身近な都市であります。

よろしくお願いいたします。

【都市政策部長】

小牧商工会議所地域活力向上委員会委員長、名和 千博様。

【名和委員】

皆様、こんにちは。地元の加藤工業というガス屋をやっております名和でございます。

こちらには地元の有識者と書いてございますが、有識者でも何でもなく、単なる商業者でございます。

ただ、地元の中心市街地にあります商業者の一人として、今後、将来どうやってこの町を活性化していくんだ、そして会社をどうしていくんだ、自分の子ども、そして孫たちがどう楽しく小牧でやっていけるのか、活力ある町にしていこうんだということに興味を持って参加させていただいております。そんな観点から発言させていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【都市政策部長】

小牧にぎわい隊、加藤 紀文様。

【加藤委員】

こんにちは。小牧にぎわい隊の加藤と申します。

小牧にぎわい隊は、中心市街地で軽トラ市、城見市とか、タウン情報誌の発行とかグルメ本「うまいたうん」の発行をやっております。

私自身は中心市街地近くで商業をやっている経営者ですが、こういったまちづくりということについてずっとかかわってやっておりまして、小牧にぎわい隊の活動もその一環だと思ってやっております。

よろしくお願いいたします。

【都市政策部長】

本会議のファシリテーターといたしまして、水野 嗣則様。

【水野ファシリテーター】

私は、市民活動団体、ファシリテーターの会に所属しております水野と申します。

ファシリテーターの会といいますのは、市民討議会まちづくりミーティングというのを毎年 10 月に開催しておるんですが、そこの実行委員として 3、4 年やっておりまして、この討議会のファシリテーターをやっていた延長線上でできた団体であります。

慣れませんが、よろしくお願いいたします。

【都市政策部長】

それでは、議題に移ります。

以後の進行につきましては、ファシリテーターである水野嗣則様にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議題（１）会議の公開について

【水野ファシリテーター】

「議題（１）会議の公開について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

【都市計画課長】

都市計画課長の永井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、議題の（１）会議公開について説明をさせていただきます。参考資料１、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針をご覧ください。

本議題は、この指針の第４条に基づき、公開又は非公開の決定を諮っていただくものでございます。

第３条で、審議会等の会議は原則、公開であること、同条第３号で、会議を公開することにより著しい支障が生じると認められる場合は非公開とすることができ旨の規定がございます。

会議を公開することは、審議会等の運営の透明性、公正性を確保するとともに、市政に対する市民の理解と信頼を深める事に寄与するものであり、本会議につきましては、公開することにより会議の運営に著しい支障が生じることはないと考えられるため、事務局といたしましては、原則、公開することとしたいとご提案させていただきます。

以上、ご審議賜りますようお願いいたします

【水野ファシリテーター】

ただいまの事務局の説明につきまして、委員からご意見はございませんか。

ご意見がなければ、お諮りいたします。

事務局の説明のとおり公開とすることにご異議ありませんか。

【委員】

（異議なしの発言）

【水野ファシリテーター】

ご異議なしと認め、本会議は公開といたします。

議題（２）中心市街地の現況について

【水野ファシリテーター】

続きまして、「議題（２）中心市街地の現況について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

【都市計画課長】

議題（２）中心市街地の現況について説明をさせていただきます。

はじめに、お手元の資料３「中心市街地グランドデザイン戦略会議について」をお願いします。

1、中心市街地グランドデザイン戦略会議設置の趣旨であります。小牧市においてコンパクトシティの形成を図り、魅力と活力のある中心市街地の将来像を検討するために必要な議論を行うものであります。

2、中心市街地グランドデザイン戦略会議の位置づけであります。市が抱える課題のうち、特に重要なテーマに対して、市長・副市長・関係職員で構成する市政戦略本部会議において、専門的な知識又は経験を有する者と議論するため戦略会議を置くことができるとされており、本戦略会議はそれに位置するものであります。

3、中心市街地グランドデザイン戦略会議の議論の進め方（案）であります。今後の流れについてであります。

第1回中心市街地の現況について、第2回中心市街地の課題について、第3回中心市街地のあり方について、第4回中心市街地のまちづくりの進め方について、を予定しております。なお、回数及び議題については、確定しているものではありません。

続きまして、参考資料3、基礎データ集をご覧ください。

2ページをお願いします。下段に中心市街地の位置図を載せております。現況をご説明する前に、位置関係を説明させていただきます。

中央部の黒色の破線、名鉄小牧線が南北に走っております。

市内の名鉄小牧線は立体交差が進んでおり、小牧駅は地下駅であります。北側では東名高速道路付近で地上にあがり、以北では高架構造となっております。一方、小牧駅の南側は、小牧口駅の少し南で地上にあがり、以南で高架構造へと続いております。このようなことから、小牧市内は、踏切の少ない状況となっております。

さて、小牧駅周辺でございますが、東西の駅前広場のほか、工事中の新図書館などの公有地がございます。さらに、再開発ビルラピオ、小学校や寺社の多いエリア、高校や現図書館を経て、史跡小牧山や市役所のあるエリアへとつながっております。

また、小牧駅から西側へ、小牧山に至る道路につきましては、いわゆるシンボルロードと呼んでおり、この道路では電線類の地中化が済んでおります。

この小牧駅から小牧山までのエリアが、概ね中心市街地となります。

参考資料3の表紙にお戻りください。

小牧駅から小牧山にかけての航空写真を載せておりますので、参考にいただければと思います。

資料4をお願いします。中心市街地の現況等についてであります。

この資料4につきましては、さきほどの参考資料3、基礎データ集から、特に特徴的な部分につきまして抽出して取りまとめたものであります。

詳細な説明は、議論の時間を多くとりたいこと、また資料を事前送付させていただきましたことから割愛させていただき、概要を説明させていただきます。

1、少子高齢化が進展していますが、小牧地区の高齢化率は20.3%で、市平均の24.1%より低く、人口は横ばいであります。

次の枠をご覧ください。中心拠点では、25歳から34歳の転入が増加しています。これは、コーホートといい、同年代生まれの集団の比較からわかるもので、例えば、平成17年に、20歳から24

歳の集団は、中心拠点で1,049人で、この集団は、平成27年には30歳から34歳の集団となり、1,273人となっていますので、21.4%増加したことになり、転入があったものと推測されます。

次の枠をご覧ください。小牧市全体では、昼間人口は夜間人口の118%であり、そのパーセントは拡大傾向であります。

2. 経済センサスでは、中心拠点の事業所数、従業者数は、平成13年と24年を比較し、ともに減少しています。また、近隣市と比較し、本市は人口1人当りの小売業売場面積が大きい状況であります。

3. 建築年の古い建物割合は市全体及び市街化区域平均より高い状況であります。

4. 市全体の空き家のうち、11.6パーセントが中心市街地に存在しています。

5. 公共交通利用者は、平成20年と30年とを比較し、こまき巡回バス、名鉄小牧駅乗降客数ともに増加、市営駐車場利用台数は減少しています。

6. 平成30年に実施した市民アンケートでは、中心市街地の活性化は、他の選択肢と比べて、充実を図るべきとの回答が多く、満足度は低い項目となっています。

その下段、まちづくりにおける中心市街地活性化の意義についてであります。

人口減少、高齢化の進展に伴い、自家用車に頼るまちは暮らしにくく、すべての公共インフラの維持は困難となります。

平成26年に、都市再生特別措置法が改正され、コンパクト+ネットワークなまちづくり、立地適正化計画の推進を図ることとなっております。

こうして、①住居、医療、福祉などの機能のまちなかへの誘導、②地域公共交通の充実、③中心市街地の活性化を一体的かつ官民連携しながら取組みを進め、交流人口、定住人口増加の好循環を目指すことは、市全体の魅力、活力の向上につながるものと考えられます。

なお、資料5につきましては、中心市街地において関連する市の事業を記載しております。参考にいただければと思います。

説明は以上となります。よろしくお願いします。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

これより、議論を進めてまいりたいと思います。

ただいまの議題は、中心市街地の現況についてであります。まずは、小牧市の現況をどう評価されるのかを中心に、委員の皆様にご意見をお伺いしたいと思います。

委員の皆様お一方ずつご意見を承りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

最初に、地元の名和委員、いかがでございましょうか。

【名和委員】

ありがとうございます。

未来の子どもたちに対する施策や何かもさまざま取り組まれていますし、医療とかいったことも非常に充実していると思いますが、この中心市街地に関しては、正直な話、実感といたしまして、休日は飲食業も休んでいるところが多いですし、人の集まりが非常に悪いなと思っております。

したがって、今回、小牧市図書館、こども未来館といった大型施設がオープンすることに非常に期待しておりますし、それをコアとしてどういうふうになの広がりが出ていくのかなということに今後期待したいなと思っております。

全く未来がないわけではなく、こういったコアができたことによって新しい展開というのが絶対見られると思いますので、ぜひそのあたりで私もできることにいろいろ参加してまいりたいと思っておりますし、意見を述べていきたいと考えています。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

続きまして地元から、加藤委員お願いいたします。

【加藤委員】

どこのまちでもそうだと思うんですけども、やはり中心市街地と言われているところが寂れていて、小牧のまちもそういうことが言えると思います。

私が子どものころは、特に日曜日なんかになると、人とぶつかり合わない歩けないぐらいにぎわっていた中心市街地ですけども、今は日曜日に営業しているお店があまり多くないこととか、飲食店が非常に少ないということで、たくさんの人が行き交うとは言えないまちになっております。

そういった中で我々がやっている城見市とか何かをやると、日曜日なんかは普通の城見市で1,000人程度、ちょっと大きい拡大版でやると3,000人程度の誘客はできるんですけども、それを近隣のお店にうまく誘導して買い回りとかができているとはまだ言えない状況で、もっともっとたくさんの人が小牧駅周辺へ何かを目的に来てもらえるようになるといいなと思っております。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

加藤委員にお伺いしたいんですが、城見市は年間でどれぐらいやっておられるんでしょうか。

【加藤委員】

月に1回ずつやっているんですけども、最近、あまり暑いとき、7月8月とか、1月2月はやらないということで、年に8回やっております。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

続きまして、鶴田委員からお願いいたします。

【鶴田委員】

いろんな都市があるんですけども、中心でも結構人口が増えているというところはあまりなくというか、非常に頑張っているというか、いいポテンシャルを持っているのかなと思います。一方で、若い幼年人口が減っているんですが、これは全体的に少子高齢化の時代ですので、ある意味やむを得ないのかなと思います。

一番足りないと言ったら失礼ですけども、住まう人は増えているし、そういう施策も打っていらっしゃるっていて、まちなかでも例えばマンションを増やして住む人は増えるんだけれども、そういう人たちがまちの外に出てこない。あるいは駅の周辺でちょっと食べて帰ろうとかか買い物して帰ろうとかか、高校生とかがほかに通学していても、駅で降りてお茶して帰ろうとかか、ここでみんなで何かしてという町滞在率みたいなものが少し低くて、そこをもう少し何かしてあげるとそういう意味では、図書館が駅のそばに出てくるということで、公共施設等総合管理計画等で何の施設を減らすのかという中で稼働率を調べると、図書館が一番稼働率が高い。恐らくその理由は、赤ちゃんからお年寄りまで非常に多様な世代が使えることと、あまり目的がなくても来られるという意味で非常に稼働率が高い。駅に付属する図書館なんかつくっておくと、駅の待ち合いの時間にそこで本を読んだり子どもたちが自習したりとかいうことで、図書館が駅のそばにやってくるというのは、私は一つの光かなと思っています。

そういうまちの中での居場所みたいなものを、建物の中に入れるものも含めて、あとはもう少しまちの中というか建物の外の部分を含めて今、ちょうどシンボルロードづくりをされていると思うんですけども、それも実現してくると効果が出てくるのかなと思います。

そんなふうにもう少し中心市街地での滞在期間を延ばすというか、そこに何か魅力を持ってくると、来訪者も増えるとか人がにぎわいがでるのではないかなと感じています。

【水野ファシリテーター】

滞在人口が増えるとよいというお話でした。ありがとうございました。

続きまして、生田委員からお願いいたします。

【生田委員】

統計とかを見ていると、やはり駅周辺の人口が伸びているということと、幼年人口が減っているということが目にとまってくる感じではあるんですけども、まちを見ての感想は、今後図書館とかも整備されて中心市街地に活力が出るようなものを集中的に配置しつつあるという印象を受けます。

外から来ている人として、小牧駅から小牧山まで歩いているときの印象が、意外と遠く感じるというか、密度感が薄く感じられるようなところがあって。何かいい建物が建つのと同時に歩行空間としての密度感というかにぎわいみたいなものが、これだけ長い距離を全部やろうとするとなかなか大変かもしれないですけども、集中的にそういうところがつくれるといいのかなと、本当にそれは感想として思うところです。新しいものだけではなくて、古くてよいものをうまくネットワーク化などして、何か魅力が出てくるといいのかなとは思っています。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

続きまして、大塚委員からお願いいたします。

【大塚委員】

人口が増えているというのは、マンションが1棟建ったらすぐ増えてしまいますので、それだけで喜んではいけないと思います。先ほど鶴田委員がおっしゃられた人口が増えてもそれがまち

のにぎわいにつながっていない。それをどうつなげていくのかというところが、これからの大きな課題だと思います。

図書館、こども未来館とか病院の建て替えとか、都市機能は中心市街地でかなり今後何年かの間に集積して、機能は高まっていくと思います。もう一方で、歴史的な資源をいかに活かして中心市街地の魅力につなげていくのかということが重要になってきます。これから進められていくのでしようが、小牧山課という課の名前自体から、小牧山というのが市のシンボルではありますが、もしかするとそこまで終わってしまうのではないかなと思うことがあります。

実は、もっと中心市街地で面的に歴史的な資源を発掘し、それこそ中世の城下町の跡とか、舟津のあたりの船着き場から昔の町が発展し、上街道ができて徐々にまちの中心が東のほうへ移ってきたというような歴史を語れるまちになってほしいと思っています。上街道沿いにもいろいろと見るころはあるのかなと思います。市民の方とか行政の方は、小牧の中心市街地に歴史的な価値をさほど見出していらっしゃらないのかもわかりませんが、もう少し見せ方を工夫して、歴史的な資源を面的につなげていくようなことを考えてはどうかと思います。小牧山だけでなく、それを中心に少し広げていけるような魅力があると、小牧の中心市街地の魅力向上にかなりつながっていくのではないかなと思います。

去年の夏も、学生とコミュニティバスの利用の実態調査とかやらせていただいて、1日駅周辺でぶらぶらしていたんですが、あまり人と出合わないというか、ちょっと寂しい状況でした。街道沿いを歩いたりもしましたが、あまり積極的に歩いてみたいとは思えないというのが今の状況ではないかなと思います。そこら辺の魅力をどうつくっていくのかというのが課題というか、私としては何とかしてほしいと思っていますところなんです。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

続きまして、山下市長からお話いただけますか。

【山下市長】

大塚先生のお話ですけれども、小牧山は今非常に注目を浴びているものですから。市民にアンケートをとっても、市のシンボルは何かと言ったら一番多くの方が小牧山の名前を挙げられるということで、今力を入れてきているんです。

舟津のところから上街道の魅力を発掘していくというお話があったんですけれども、質問させていただきたいです。

それは、もっと楽しめるように何が欠けているのか。先ほど、飲食店というこっちの話もありましたけれども、歴史資源を掘り起こして散策という話と、そこに観光とか、外からというイメージもあるかなと思うんですが、どういう整備をしたら、あるいは何をプラスしたら先生がおっしゃるイメージのようなもう少しにぎわいにつながっていく道になるのか、まちになるのか。そのあたりをもう少し詳しく伺いたいなと思うんですけれども。

【水野ファシリテーター】

大塚先生、お願いします。

【大塚委員】

これというアイデアを持っているわけじゃないですが、まず、人が来たくなるような仕掛けをしていって、そういう人たちが来ることを前提に、訪れる人たちが求めるものを用意していくという順番かなと思っています。

歴史地理学科というところに所属していますが、歴史に興味を持つ学生が多い中で、信長が4年間ここに戦国時代の戦術的な拠点として小牧城を構えたことに関心をもって研究している院生もいます。立派な城下をつくって、そこで経済活動も行った。信長というのは、結構人気があり、全国的に誰もが食いつくので、信長つながりでいろいろと広域的に他都市と連携して、信長ゆかりの地が協力して信長サミットの的なことを行い、PRしていくとか。小牧といたらやはり信長のお城みたいな売り込み、PRをして、まず、一回行ってみたいなと思ってもらえるような仕掛けをする。そして、そういう人に来てもらったらまちでどういうおもてなしをするかというストーリーを描いて、そのためのハード、ソフト両方の準備をすることを考えてはどうかと思います。

だから、具体的にこれとこれとをしないといけないよというアイデアはまだ持っていないので、皆さんと一緒に考えていければなと思います。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

山下市長、お願いします。

【山下市長】

それぞれ、現状についてのご認識を少しずつお話いただきまして、私も同じような思いがあるなと思いながらお聞きさせていただきました。

私も実はこの中心市街地のエリアの商店街の生まれ育ちで、うろ覚えな記憶ですけれども、どんどん衰退していているというのは目に見えてわかっている状況でありまして、これは全国的な傾向だろうと思っています。小牧だけがこういう状況に何かしら特別な要因があってということではなくて、全国的に中心市街地、特に商店街等が衰退してきている。これは、車社会がどんどん進んで、ロードサイドに郊外店の大きなものができて、ショッピングとか飲食についてはそっちのほうへ流れていってしまっている。相対的に中心市街地の空洞化が進んで集積が減るものですから、魅力も低下して、負のスパイラルがどんどん進んできているのが全国的な状況かなと。

中心市街地の再生ということで全国の市町が再開発に取り組んだのが30年40年前の状況ですけれども、残念ながらなかなか成功している事例というのは、ないとまでは言いませんけれども、少ないのではないかなと思っています。

隣の春日井なんかですと、勝川駅なんかは近年の再開発でちょっとうらやましいなという状況を見ます。それぞれのまちが、数十年前の再開発じゃなくて、最近の駅の再整備ということで取り組んできている事例があって、小牧もそろそろもう一度やらなきゃいけないだろうという中で、小牧駅がもう一度再スタートを切ろうということで、先ほど挨拶でお話しさせていただきました新図書館や、ラピオの再生に向けて飲食店や商業施設がなかなか入らないものですから、もう公共でやるしかないということで、商業施設は1階に集約して2階以上は全て市の所有ということで変えていただいて、公共として何をやるかといったときに子育ての施設を入れていこうとさせていただいたわけでございます。

交流人口と定住人口とありますけれども、働く人口は小牧全体で見て 119%で、尾張北部ではほぼほぼ唯一と言っていいような外から働きに来るまちで、ベッドタウンではないまちです。その中でも中心市街地の魅力が低下している中で、私としては、中心市街地というのはやっぱりなきやいけないというか、「まちの顔」とか「まちの核」というのは少なくともなきやいけないと思っていました。西部の方も東部の方もお見えになるんですけれども、いろんなご意見はもちろんありまして、中心市街地にそんなに集中するより、もっと分散で自分の住んでいる地域の周りにもっと、図書館にしてもいろんな施設にしても置いてほしいというような声ももちろんあるんですが、国の方針など色々あるのですが、やはりコンパクトシティは進めていかなきゃいけないし、まちのシンボルとしての精神的な支柱という意味でも、小牧の中心はどこなの、小牧駅前になにかあるのかといったときに、やっぱり市民の誇りとかあるいはシンボライズできるような核がないといけないんじゃないかなとそういうことを強く思ってこれまでやってまいりました。

今は再スタートのときと言っていますが、実は 8 年前からこういった会議体や、いろいろと町の皆さんとやって、並行して進めていかなきゃいけないなと思ってきたんですけれども、非常に難しさを感じているのは、商店街に空き店舗が増えているんですけれども、まだお住まいになっていて、シャッターを閉めているんだけどお店として貸したりしないというような、倉庫とかになっている状況があつて。要は他人様の土地ですから行政はなかなか手を出せないということもあつて、どうしたものかなというのが正直なところです。

シンボルロードの整備が今年度で山の北側まで抜けて完了する予定ですが、来年の夏末ぐらいに仮称でありますけれどもこども未来館がオープンし、図書館については再来年の 3 月末までにオープンしていくというスケジュールの中で、やっぱり私が大事だなと思うのは、先ほど鶴田先生がおっしゃったようにまちなかの滞在というのが少ないですね。

人口は減っているわけではないけれども、人口が一番伸びているのは名鉄沿線の味岡という北のほうとか南のほうの区画整理地域内であつて、小牧駅周辺というのは区画整理は東は終わっていますし、西はこういった状況です。そういった中で、私の感覚的には空洞化している。実際には人口は多少なりとも伸びているんでしょうけれども、土曜日日曜日あるいは夜、飲食店もなかなか張りつかない中で、魅力がないという中で滞在してもらえない、わざわざ来てもらえない状況であります。

図書館も未来館も人は来ると言っていますので、この新たな変化の中で、今まで来なかった人が来てくれるということ、行政としては、周りの民間の土地には手を出せないものですから、やれという御意見があれば、ここでそういう御意見があれば、違った形もあるんでしょうけれども、今は行政が買収して広いところをまた再開発していくというようなところまで踏み込むのはなかなか難しいのではないかと考えています。

人の流れを変えることによって徐々に、5 年 10 年あるいはそれ以上かかるかもわかりませんが、周りも変わってきて徐々ににぎわいを取り戻していく。何とか民間の皆さん方にもそういった流れに乗っていただくような仕掛けを考えていけないだろうかというのが今の私の思いというか、考えであります。

道路とか都市機能面で行政がここは手を入れるべきだというようなことがあれば、そのあたりは御意見をいただきたい。例えば、完全に区画整理的にきれいに道路とかが整備されている状況でもないです。1 つ奥に入れば細い道がまだまだある状況ですし、都市施設である公園というのも、実は駅から小牧山までの間にはほぼほぼ公園がないです。一番人口集積の場所である中心市街地に、

児童遊園はあるんですけれども、きちんとした公園もないので、そのあたりも実際どうなのかとか、いろいろ考えるべきポイントはあるかなということは思っています。

駐車場不足を懸念する声もありますので、そのあたりがどうなのかというところもございます。

少し長くなりましたが、今の私の現状認識やら課題認識やら、思っていること含めてお話しさせていただきました。ぜひ皆さんのお知恵を借りながら進めてまいりたいと思います。

よろしくお願いいたします。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

ただいまは、現況をどう評価されるかについて委員の皆様に通ろご発言いただいたわけですが、ここからは、委員の皆様方のお考え、こうしたらいいんじゃないかとか、いろんなお考えをお話しいただければと思います。

これからは特にご指名はしませんので、挙手いただいてお話しただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

大塚委員、お願いします。

【大塚委員】

その前に、東部の会議のときにもありましたが、前提条件として中心市街地というエリアはどのぐらいを考えたらいいのか。資料では中心拠点という言葉で説明があつたりして、この資料集でいうところの高次都市機能誘導区域ぐらいの範囲のことを考えていくのか、もっと小牧地区全体ぐらいを考えるのか。

ここで言っている中心市街地というのはどのぐらいのエリアか、そこをまず確認させていただきたいと思います。

【水野ファシリテーター】

それでは、事務局からお願いできますでしょうか。

【都市計画課長】

事務局の考えといたしましては、参考資料の都市機能誘導区域として示させていただいている小牧駅から小牧山までのエリア。

参考資料3を開いていただいて、目次の前の下側の図、中心拠点、立地適正化計画で高次都市サービス誘導区域と指定させていただいている赤枠のエリア、ここを基本としてご議論いただければと考えております。

【大塚委員】

了解しました。ありがとうございます。

【鶴田委員】

そうすると、小牧駅の表と裏と、どつちかわからないですけれども、東と西ですごく性格が違うというか。これを両方含めてとなると、性格が違って難しいところがあるんですが、やっぱりこれ

も含めて、駅の西も東も含めてここでは議論するということになりますでしょうか。

【山下市長】

おっしゃられることはよくわかります、私は駅の西にも東にも住んだことがありますので。全然性格が違いますね。東は区画整理が終わってしまして、いわゆる住宅地が広がりながら、それでも飲食店等も点在はしているような状況です。

基本的に我々、多分市民も職員も、いわゆるにぎわいを創出していくという意味の中心市街地は駅の西側、駅から小牧山あるいは市役所あたりまでの空間というイメージがあるんじゃないかな。ここに市役所があり、そこにアピタさんなんかもありますけれども、あれはドン・キホーテさんに生まれ変わるということで、今休業中になっているのかな。市民病院があり、商工会議所があったり、メナード美術館があったり。小牧山があって、ずっとシンボルロードが駅まで続いていて、その途中にラピオだとか、今度新図書館も駅前にできて。

ただ、実は駅の西広場も東広場もこれから工事に入って再整備していきますので、特に駅のすぐ東という意味では、ピーチライナーの駅舎を取り壊して、公園とかバスロータリー整備とか手を加えていきますので、そのあたりはもし何かできることがあれば、加えて考えていただくのもいいんじゃないかと。

東もやっぱり西と連携してこうやったほうがいいよというご意見があれば、それはやっぱりあわせて検討していければいいなと思うんですが、イメージとしての中心市街地はどちらかという駅从小牧山あたりまでというのが、市民のイメージは大体そうじゃないでしょうか。

【水野ファシリテーター】

よろしいですか。

大塚委員、お願いします。

【大塚委員】

今後どうしていったらいいかということですが、私はお金を使うのはあまり得意じゃないので、お金をかけずに何ができるかすぐ考えてしまいます。やはり駅前広場の空間をもう少しソフトな仕組みとか工夫で活用していくことを考えてはどうかと思います。

この間、きれいになった福井駅を見にいったら、駅前の動く恐竜のモニュメントもすごくよくできていて、みんなそこで写真を撮っています。その反対側の屋根がついているところではコンサートをして、みんなが聞いていました。そういう屋外でちょっとした人が集まって何かイベントできるというか、そういうにぎわいがつくれるような場所という使い方ができないかと思います。今までやってこられたかどうかよくわかりませんが、これから駅前にいろいろなものが集積していくんだったら、そこに集まってくる人たちに向けたイベント空間として活用していくというのは、とりあえずできることではないか。多分お考えいただいていると思いますが。

【水野ファシリテーター】

加藤委員、お願いします。

【加藤委員】

今の意見に大賛成です。今までは駅の西側の広場というのはタクシー乗り場とか車の乗降場になっていたのですが、なかなか人が立ち入れるというスペースではなかったんです。でも、全部そこら辺を撤去して、次の計画によると、そこには車を乗り入れしないということも聞いております。あそこを何とか有効活用した広場と、道を隔てた図書館になりますね。図書館の北側に歩専がありますので、そこをうまく組み合わせていろんなイベントができたり、人が集まるようなことをやるというなと思っています。

我々の城見市というのは、東春信用金庫の本店跡地、ラピオの西側でやっているんですけれども、そこでやっているイベント自体を、駅の周辺が整備されたらこちらに持ってくることもありだよねということは、にぎわい隊の中でも議論されているところです。

今、駅の下には観光協会が運営している観光案内所があります。私は観光協会の理事でもありますがけれども、そういったところの情報発信と実際にイベントを行うにぎわい隊というものがうまくコラボして、情報発信しながら人が集まるような誘致のイベントができるような場所をぜひつくっていただきたい。

そういうときにいつも困っているのが電源の問題とか雨の問題とかあります。電源も、近隣の店とかに電源を借りてずーっと引っ張ってきて、足りない分を発電機でやっているんですけれども、発電機を使うと排気ガスの問題とか騒音の問題もあるので、計画の中で、しっかり電源の供給ができるようなことも含めて、雨の対策もある程度できるようにしてもらえると、いろんなイベント、いろいろなことができるのかなと思っています。

金山駅みたいなことができるといいなと思っています。

【水野ファシリテーター】

名和委員、お願いいたします。

【名和委員】

中心市街地を皆さんで開発していこう、みんなで盛り立てていこうというためには、旧商店街の方たちの協力というのが不可欠だと思います。

私はそこに住まう者として発言させていただきますと、旧商店街の方たちのまちに対する将来に対する夢とかいったもの、すごく温度差があります。

と申しますのが、何かをやってほしい権利の主張はあるけれども、それに対して自分たちが何かをやっていくとかいった協力することに対して非常に反対が多いような気がいたします。新図書館の建設に当たっても駐車場なんかが非常に話題になりましたけれども、駐車場ありきで話をして、まちづくりをどうしていくか、どう盛り立てていくんだという話には至らないわけですよね。それらを周りから聞いておると、非常に不思議に思えるわけでございます。

例えば七夕まつりや何かにしても、まちが汚れる、におうということで、むしろそれをやめてしまう。商工会議所がそれになりかわって、私たちがやりますから何とか協力お願いしますと言って、今さら我々はやりたくないというようなお話も実はありました。何かをやるに当たって、そこに住んでいる方、ビジネスをやっている方がそもそも立ち上がらないのに、周りの者とか行政が動いて、果たしてこれが動いていくのかというのは若干不安な部分があります。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございます。

今のお話は、意識を変えられるかどうかというようなお話につながりますよね、インセンティブのお話とか。

【山下市長】

やるべきことはしっかりやっていかなきゃいけないということで、議論していかなきゃいけないんですけども、どっちがいいとか悪いとか、誰がだめとかという話じゃなくて、正直なところ、名和さんがおっしゃったような状況は私も感じますね。

皆さんよくわかると思いますが、温度差が非常にあるので、商業をやめても住居として住んでいて、シャッターが閉まっています。実は飲食店なんかを借りたいという人がいても、出せる場所、店舗が見つからないという状況にあります。火を使うから心配だとかにおいが出ると嫌だとかいうことは聞いています。飲食店なんかも、出店したくても出すところがないみたいな状況も実はあるのかな。

ただ、今町が変わってきているのかなと思うのが、旧来の皆さん方が商売の後継者がいない状況で、もう自分がやめれば店を閉めるところが結構増えてきています。以前は絶対ここからどかないとおっしゃった方々が店を引き払って引っ越されたということもここ 15 年ほどで変わってきていて、私が県会議員になった 16、17 年前だと、絶対みんな引っ越さないぞというイメージだったと思うんですけども、今は大分スペースがあいてきていますので、大分変わっちゃったのかなと思います。そういう点では、ある意味次のことを考えるべきタイミングだということを強く感じます。

あとは、今の図書館の駐車場議論の問題やら七夕の問題やらというのは、一部地元の協力体制がきちんと組めないという問題というのは私も心配するところです。協力は不可欠ですけども、どうこれからの小牧駅前あるいは中心市街地のあり方が全市的に見てこういう位置づけであって、そしてこれからのことを考えるとこういうまちづくりをしていかなきゃいけないという合意形成を広く図っていく中で、まずそういう方向づけを市としてきちっとやっていく。その中で協力を求めるところはしっかり求めていくということだと思います。

広く議論して、こういう方向性で行くべきなんだということを決めていこうというのがまさに今日の会議の第一歩だということですので、みんなが、そうだね、こういう方向で行くべきだねというふうになれば、それをもとに地元の一人一人の皆さん方に協力はしっかり要請して、お願いしていくということしかないかなと思っています。

【名和委員】

合意形成が、今後地道にきちっとやっていくという前提において発言させていただければ、先ほど大塚先生がおっしゃられました、信長とかいったスポットの話題を点から面でやっていくということに大賛成です。

まち・ひと・しごとのワーキングでもお話しさせていただきましたけれども、やはり人というのは衣食住、趣味、話題といったことに動かされるところがあります。特に話題という面においては、先生がおっしゃられた信長なんかが非常に歴史的に意義あるものであれば、それに興味ある方だけではなく、より多くの人に興味がわくような方法で、面で捉えて発展させていく必要があるだろうと思っています。

最近では、インスタなんかを初めといたしました SNS なんかの発信機能を捉えて話題をつくって

いくことが大事なのかなと。ただ、話題というのは一過性で終わってしまう可能性がありますので、それを一過性ではなく、ラピオから小牧山に至る道を、話題を提供して人が興味がわく道筋にしていくのかというのが非常に大事だろうと思います。

そのために先ほど質問させていただきました。地元商店街の人たちの反応はどうなんだろう、いくら周りが変えたくても地元が反対したらそれはできないから、何とか意識改革なんかもあわせてやっていくべきだと思っています。

私の究極の夢というのが、あそこが滋賀の黒壁スクエアのような形で、歴史とまち、人が融合していくような形になるのがいいなと思っています。

以上です。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

鶴田委員からご意見をお願いします。

【鶴田委員】

さっき名和委員からご指摘があった観光と住まいの話とか、あるいは温度差がある空き家、空き店舗を本当はスペースとして使いたいけれども持ち主さんが貸してくれないみたいなことは、実は全国どこでもいっぱいある話です。

私はたまたま郡上と 17～18 年かかわっているんですけども、今こそあのようになりましたけれども、郡上は 30 日間かけて順番に町ごとにお祭りをやりますから、町じゅうがうるさく騒がしくなっちゃうので、住んでいる人は、騒がしくてプライバシーも侵されるから嫌なのか、あるいは町を活性化するためにもっとお祭りを全国に広めるのか、すごく悩んでみえました。

どうしたかという、市民に任せるといって、どちらを選択していくのかを役所の人が決めるのではなくて市民がみんなで考えてやりましょうといって、最終的にお祭りにいかれたので今はあなっているんだけど、そういう悩みがありました。

空き家についても、やっぱり貸す人と借りる人それぞれが非常にいろいろ悩みとかを持っていて、郡上がやったのは、それぞれの悩みを全部聞いて、借りる人貸す人両方の悩みを全部解決してあげる仕組みをつくったらきっと大丈夫じゃないかと思って、やって 3 年になるんですけども、360 軒あった空き家が 50 軒ぐらい減っています。それは住まいとして使われているところもありますし、お店に変わっているところもあります。

今の話も、恐らく旧商店街の方々はいろんな意味で不安があるので踏み切れないところもあると思うので、何を不安に思ってみえて何で先へ進めないのかというのを聞いてあげて、それを解決してあげる仕組みを考えてあげないとなかなか難しいと思うし、それはできると思います。そういうのが大事かなと思いました。

あと、歴史的なものの話ですけども、私は中心市街地の中にももちろん歴史的なものがいっぱい点在していて、それを先ほど生田先生がおっしゃったみたいにつなげるというのがすごく重要だと思っています。つなげる中に図書館があり駅があり、その一つとして歴史的文化財があると、単に観光だけでなく、町を周遊できるという意味でいえば、滞在を長くするという意味でいえば、住んでいる人にとってもありがたい環境ができれば助かる。

11 月の上旬に学会で横浜を学生と一緒にずっと歩いたんです。すごい距離があるんですけど

も、みんなぞろぞろぞろぞろ歩いて、2キロ3キロ歩いても全然飽きないです。歩くところにすごく魅力がいっぱいある。

学生によく言うんですけれども、実際の歩く距離と感覚距離、これだけ歩かされたという距離はすごく違う。だから、シンボルロードなんかについても、心象距離を短くするような仕掛けをしないと短くならない。実際の距離は短くならないですけれども、道路空間のつくり方とか沿道にどういふものを張りつけるとか、何と何をつなぐかということで心象距離を短くするということを道路についてはやらないと、人が動いてくれないなと思っています。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

今のお話の中で、商店街の空き家になるところと入りたい人をマッチングして、解決してあげるというお話がありましたが、解決する主体はどういうところが行っているのでしょうか。

【鶴田委員】

郡上の場合は、産業振興公社の中に空き家チームという部署をつくって、基本的には公社がやっています。

1軒1軒の空き家については、たしか1軒あたり400万だったと思いますけれども市が融資するというか、でも、それは家賃を払っていただくので、10年間で償還できるというシステムを5〜6年前から作られて、実績を上げているということです。

空き家対策については、マッチングとかをNPOとかがやっていらっしゃるところもあるんですけれども、郡上が公社にした理由は、特に貸す側の安心感。NPOとか民間でやっていると、いつかそれがなくなってしまうというか、安心感のために公社の中に置きましたということをおっしゃっていました。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

山下市長、お願いします。

【山下市長】

大変勉強になりました。

名和さんからの話から始まった話ですけれども、黒壁スクエアという名前も出ましたけれども、あそこもたしか不動産管理については、名前はわかりませんが、地元で公社なりをつくってそこが全部空き家管理とか不動産のマッチングを手がけている。要するに、まちとしてそうした機能を自分たちで持ってやっているというのを以前お聞きして、多分今でもそうやっているのかなと思います。こういう店は入れないとかこういう店が望ましいとかいったところも含めてまち全体で話し合いながら空き家管理までやっていかないと、商店街の再生みたいなものは難しいなというのは、実は市長になるときからずっと思っているんです。

要するに、どこまで本気になるかというところが、先ほどから地元との関係とかいったことも含めて非常に難しい、なかなか足が踏み出せなかった。私は市長になって9年目になってしまってい

るんですけども、駅前に何をつくるかということだけでかなり時間を要して揉めてきてしまったので、実はもっと早くこの議論を始めたかったんですけども、ここに至ってしまっているという状況です。

心象距離という話がありましたけれども、なるほどなと思っています。私は商店街の生まれ育ちですけども、一時期東京で国会議員の秘書をやっているときに武蔵小山にいたんです。武蔵小山の商店街とかだとすごい人で、このあたりですと大須商店街とか何が違うかなと思ったら、やっぱり車を通しちゃだめだなという。アーケードがいいなというのと、車が通り抜けになっちゃったらだめだとか、歩けなくなっちゃったからだめだなと非常に感じるのと、ある一定の集積がなければいけない。例えば洋服を買うのに、少なくとも3店舗以上そこにあって見て回れるというんだったらいいと。古着なら古着とか、何屋さんなら何屋さんとかで一定の集積がないとそこへ行かないということがあるということなので、ある一定規模の商業の集積と、小牧の場合、シンボルロードと言っているんですけども、昔ももちろん車は通れましたけれども非常に狭い道路だったのを拡張して、通り抜ける道路になっちゃっているんです。それを今年度完成すると言って全部抜けるんですけども、私は正直ずっと、あれはきれいにはなっているけれども、商店街振興というか中心市街地の商業、サービス業、いわゆる商業集積に向けてはむしろマイナスだなと思ってきたんです。私になる前からの長年の事業ですので今でもやっていますけど。

そんな思いの中で、国交省ですら、この資料にもありますけれども、歩いて回れるまちなか空間ということを盛んに言い始めていますし、駅前の芝生化とかタイムズスクエアのブロードウェイを全部歩行者空間に一夜で変えてしまったという話も例に出しながら、今の駅前の再生についていろんなまちの事例なんかを言っていますので、そういう意味では、歩いて回れるということが1つのキーワードかなと思います。一定の集積をいかにつくって、そこで歩いて楽しい回遊性のあるというか、そういった駅前をつくっていくということで、民間に完全に任せ切りでもいいのかなと思いつつ、その仕掛けづくりとかいったことを含めてちょっと考えていかなきゃいけないなとは思っています。

図書館と駅西駅前広場の間の道をなくして、そのまま図書館へとできないのかといって、私だったらそのほうがいいと思うという話はするんですけども、都市計画道路があつてそういうわけにいかないのだろうなと思いつつ、市長としてもいろんなものがあるんじゃないかなと思いつつ、でもそういうわけにいかないとか。道路に車が通らないほうがいいんじゃないかなと思いつつ、今まで30年40年続いてきたまちづくりとの兼ね合いがありますので、全部ぶっ壊してつくり直すというわけにいかないの、今ある状況からいかに変えるかということなので、非常に難しい悩みかなと思っています。

知恵をかしていただきたいという会議でございます。よろしくお願いします。

【鶴田委員】

さっきお話聴いてて思ったんですけど、図書館から駅は今、高架になってるんですよね。

【山下市長】

現実には、駅のペデストリアンデッキを壊しました。高架になったんですけど、そもそも刈谷とか、豊田とか、あっちのほうの駅っていうのは、2階に電車が着いて、だから高架でいいんだけど、うち地下駅なものですから、わざわざ地上に上がって2階に上がる人いなかったんですよ。だからこ

れ無駄だろうということで、これもう壊しました。今ラピオ側の高架ペデストリアンデッキは残っています。今度、図書館を建設する予定地のA街区とラピオとを結ぶ高架だけは残してあります、という状況です。

【水野ファシリテーター】

鶴田委員お願いします。

【鶴田委員】

つなげたらいいのかなと。よくペデストリアンデッキって、そのままずどんと行けるというのが結構多くて、それがさっきの言ってた駅の周辺のにぎわいも、そうすると駅の周辺でそういうにぎわいのスペースを造ったとする。そのにぎわいが、図書館とかラピオを通じて、まちのほうにずっと出ていくという意味では、ずっとペデでつながってるといいなと思ってたんですけど、今の話を聴いて、ちょっと無理かなと思いました。

【山下市長】

いろんな議論あったんですけど、なかなか昇る人いなくて、いろいろ考えると、いろんな意見ありますけど、私としては、地下駅なものですから、なかなか昇る理由がそもそもないってところなんです。今先生のおっしゃるように、全部がつながればいいとは思うんですけど、そういう状況じゃなかったの、思い切って図書館建設等に合わせて、壊し終わったところです。

【水野ファシリテーター】

加藤委員お願いします。

【加藤委員】

2階で行き来するってというのはもう無理になってるんですけども、大きめの道路を挟んで、ということになってるため、車の交通があっても仕方ないことだと思います。そこをホコ天にしたら、うまく人の行き来ができるような、つながるような設計になります。それをホコ天にしたらうまくつながるよねっていうような、平面上でもいいから、設計上はそういうふうにしておけば、何かイベントをやるときにはちゃんとつながるし、駅降りて、ぱっとラピオ見たときに、しっかりそこら辺見渡せて、小牧山城が見えてっていうような、駅降りた人が小牧ってこんなまちなんだと見えるような、あんまりそこに視線を切るようなものを造らずに、利用しやすいように設計していただくと、駅前広場が有効に活用できると思います。

それからシンボルロードも立派な道になってしまったんですけど、意外と歩道は広いです。ただ、その広い歩道に、大きな花壇だとか、いろいろな物が置いてあって、半分ぐらいは人が歩けるようなスペースになっていなくて、それが僕はすごい邪魔に感じています。そんなことをなるべくすっきりしていただいて、お店の人も多少ちょっとはみ出るというか、出てもいいから、ベンチとか置いて、歩いた人がちょっと休憩するとか、ワゴンがちょっと店の前に置いてあるとか、歩道を有効に使って、歩道を歩いてみたいなと思えるような物を置けるようなスペースをつくってもらって、なるべくコンクリートで固めたような花壇とかはどうかしてほしいなと、僕は以前から思っています。

【水野ファシリテーター】

あの花壇はその前のお店の方たちが出してる花壇なんですか。それとも市が設置しているんですか。

【山下市長】

ところどころ台形でブロックが設置してありまして、そこに木が植わってたりして、あれは市のほうのものです。ただ花でいっぱいなまちにしようという運動があって、結構プランターを配りました。そのプランターは、それぞれの地域の近くの人がお世話しているという状況です。花を植えているのは、うちが配ってる花を地域で植えていただく作業を、これは全市的にいろいろなところでやってるものです。

ちょっと事務局のほうで、先ほど加藤さん言っていたけど、駅西広場から歩専1号に向けてペデがあったので、そのデッキ取った後に、横断歩道でつなげれないかという話をしたんですけど、私が今受けている報告によると、公安委員会が両側の信号と横断歩道がありまして、そこは非常に距離が短いので、なかなか許可が下りないということです。

もう一つ、駅地下駐車場との構造上の問題で、平面化できるかどうかという問題もあるし、入り口もあります。駅西広場と道路の面をあわせられるかについて、事務局に説明をお願いしたいです。

【都市計画課長】

それでは2点報告をさせていただきたいと思います。まず1点目が、横断歩道ですね。駅の駅西広場、一番大きな図面が、参考資料3の28ページをお願いしますでしょうか。駐車場利用状況の図ですけれども、これは中央部に小牧駅がございまして、そのちょっと西側、白い部分がございます。ここが名鉄の地下に小牧駅があるビルでございすけれども、その西側、小牧駅地下駐車場と書いてございすところ、ここが駅西広場というところになります。

そこからさらに西側のほうに、まだこの図ではペDESTリアンデッキが記載した図となつてございすけれども、その北と南側、上と下のところに交差点がございす。今はここに、東西方向に横断歩道がどちらもあります。このペDESTリアンデッキを撤去したところに横断歩道が敷けたらということで、公安委員会のほうと協議をさせていただいたんですが、その北と南の横断歩道との距離が短いので、ここには横断歩道はできないということで答えを返していただいたという状況です。

それから2点目ですけれども、高低差が少しありますという説明をさせていただきたいと思います。小牧駅地下駐車場、地下に駐車場がある関係で、そのすぐ西側の南北の道路の高低差が、今現在約1メートルございす。すり付けなどをしたとしても、そこを完全に平面のような構造にするということとはできないということで、人の出入りはできますが、スロープもしくは階段ということになろうかということで報告をさせていただきます。

【山下市長】

今の話もそうだけど、ちょっと今加藤さんのお話聞きながら、何とか私も歩いている中で、たとえば休日とかイベント時だけでもちょっと閉じられれば、実は新図書館の地下駐車場への入り口を東側に設置しなきゃいけないので、完全には無理なんですけど、歩専1号のところ辺りでできれば、駅西と歩専1号と合わせて使えるようにっていうのは、私もそのほうがいいのかなというのはちょ

っと思っています。

まだ皆さんの意見を聞きながら進めたいと思います。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

生田委員、お願いします。

【生田委員】

ちょっと駅西広場の話から、商店街の話に戻ってしまうんですが、例えば、名古屋の円頓寺というエリアがあって、10 年前ぐらいまでから今までで駅前がかなり状況が変わってきているんですけど、最初のうちは本当に地元の 2 代目というか、若旦那衆みたいな人たちが話し合いをしているような状態から始まって、1 軒、2 軒が少しおしゃれなカフェになるとか、レストランになるっていうような状態でした。だんだんそういう状態で 1 軒、2 軒が現れた後と、徐々に本当に丁寧に、1 年たつと 1 軒増えるかなぐらいのペースで増えていたのが、本当にこの 2、3 年の間にある程度増えてきた状態で、急激にそのエリア全体が商業化されていったというようなことがあります。やはり最初のうちかなり育てるのに、少し腰が据わった方がいるとか、そういうような状況があるといいのかなと思うんですけども、何軒が増えてきた後は、かなり急激に増えるというような様子が見られたところがあります。

先ほど公社という話があったんですけど、柳ヶ瀬のほうでもやはり職員的に地域のまちづくりを仕掛ける人というのが、3 人を 3 年とかしたんです。何人かを短期契約でまちづくりを仕掛ける、まちづくりを考えるっていう形で最初、まちに入っていってもらって、それが徐々にかなり長い年月がかかっていきながら、少しずつ実ってきているようなところもあるかなというふうに聞いているので、何か商店街エリアのところで仕掛け人みたいな方を、人というかソフト的に何か頑張るといいうのもあるのかもしれませんが。その状況が小牧に合っているかどうかは、ちょっと私はその気配が分かりきっているわけではありません。

あとメインのロードのみならず、そこら辺の近くで、意外とメインのロードが広過ぎてということは私もすごく歩いてみてそういうふうに感じる場所がありました。もう少し、周辺のエリアなんだけれども、細い道で可能性があるような、住居でもなにがしか仕様を転換するような可能性とか、そういうエリアというか、そういう細い道のほうに何かあると、意外といいのかもなと思ったりするんですけど、どうなのでしょうかね。

【水野ファシリテーター】

今のお話の中で、仕掛け人みたいなというお話がありましたけど、その辺についてどのようなお考えでいらっしゃるのでしょうか。

【加藤委員】

私も犬山のまちづくり株式会社だとか、勝川の弘法市の組織だとか、あそこら辺もそういったみんなでお金を出資してつくって、建物まで買って、そこに自分たちが希望するお店を入れることをやってみるっていうこと、いろいろ講演会とかでお聴きして、まさに黒壁もそうですよね。まさにそういうことでやっぱり仕掛けてかないといけないな。やはり単純にテナントを募集すると、衛生的でお

金をちゃんと払ってくれるところをテナントとして選ぶんです。大家さんとしては、それはにぎわいに関係ないかもしれないですけども、にぎわいに関係のあるようなお店が来て、楽しんでいてくれる人が増えるというようなお店づくりをするには、やっぱり仕掛けてかなきゃいけないという中で、われわれがコントロールできるような仕組みづくりをしたいなと思います。

具体的に言うと、本当に建物まで我々が手に入れて、そこに何か入れるっていうことをしたいなということで、それはいつも話していることなのですけども、やっぱりタイミングだとか、資金だとか、動く人というのがなかなかそろわないまま今までは来ているんです。われわれにぎわい隊が活動している中で、お店は閉めてしまったけども、次の世代の方が昔のにぎわいを知っている方が、自分たちがそういう状況であると申し訳ないと言われることはあります。だから何か貢献したいとは思っています。どうしていいかわからないと言われる方がやっぱりいるので、そういう人たちと粘り強く話ししながら、生かし方というのはやれると思います。先ほど話されたように、反対勢力とは言わないけども、ちょっといろいろ言われる方にも、個々にいろいろな事情をお聞きしながら話していくと、全員、まちは愛しているし、発展したいと思っているので、その辺をちゃんと根強く話しながら、皆さんの意見を聞きながらやれば、決して誰も反対しないまちづくりができると僕は感じつつあります。

段々やりながらそういうことを感じるようになったんで、陰で応援してくれる方もみえるので、そういう方と市の方もわれわれも一緒になって、そういう人たちと対話してやってくことが大事ななと思います。その脇道にも、またそういったポテンシャルがあるところもあると感じているので、やっぱり1個1個事情を知ってそれに対応する。貸したら税金安くしてあげるとか、いろいろな力入れるところがあるかと思うんですけども、そういうのを含めて対策を練れば、可能性はあると僕は感じています。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。
大塚委員、お願いします。

【大塚委員】

仕掛けていくというのも大変重要だと思っています。30年以上前から商店街の活性化の仕事もいろいろやらせてもらっていますが、商店街全体がまとまって何かをやろうとするのは、たぶんもう無理だと思います。“この指とまれ”方式ということで、共通の理解を持った人が集まって何かをやるというやり方でないとうまくいかないのかなと思います。それは特に商業者じゃなければいけないということもなく、先ほどから出ている黒壁は商業者ではなく非商業者が中心となって、数人でお金を出し合って事業を実施しました。多くの方から出資を募ってお金を集める方法もありますが、それだと危機感というか、本気になれないということで、黒壁はこの方法で成功しました。1日の歩行者通行量がほんのわずかであった北国街道は、今では何百万という人が来るようになっていきます。そういう何か目に見えるものができて成果を挙げていくと、今まで動かなかった人も動くようになっていくということがあります。

もう一つは、石川県の加賀温泉郷の一つ、山中漆器でも有名な山中温泉の例です。そこも中心の温泉街から外れたようなところで、ほとんど観光客も来ないところです。発展会にリーダーシップのある人がいて、視察で湯布院に行ったときに、これからはやはり伝統とか文化が重要だと感じて、

それぞれの店で自分の本業にプラスして、文化とか伝統の要素を取り入れた店づくりをやっていくということになりました。そこの理事長の店は文房具屋さんですが、文房具は奥の方にわずかに置いてあるだけで、ほとんどは漆器の展示・販売コーナーです。また、酒屋さんであればとっくりなんかを並べたりとか、新聞販売店はお客さんが来ないですが、そういうところでは伝統的な看板に換えたりというふうなことで、1店舗2業種の店をどんどん増やしていき、そうした店がどんどん広がっていききました。そして、そうしたギャラリーを散策するような取り組みにもつながっていき、まちの中を散策してもらうような仕掛けができていききました。そういうのも割と手法としては参考になるのかなと思います。

話がばらばらですが、やはり一番中心市街地でやらないといけないのは、みんなが中心市街地の必要性について共通の認識を持てるかどうかということです。中心市街地の人たちや一部の関係者がいくら頑張っても、周りのそれこそ小牧市の郊外にお住みの方があまり中心部に来ない、あまり関心を持っていない、名古屋へ行くから中心市街地の必要性を感じていないというのでは、いくら中心市街地で頑張っても何かをやっても人は来ないということになってしまいます。それこそ飯田のまちづくりカンパニーは、飯田の中心市街地で再開発を行った組織ですが、ここはさっきの黒壁とは逆で、全市的な合意形成というか、全市的に応援してくれる人がいなければ中心市街地も維持できていけないということで、幅広く市民から出資を募ってまちづくりカンパニーを立ち上げました。この資料に中心市街地の意義が書かれていますが、小牧には小牧山を中心に中世から近世にかけてまちがつくられてきた歴史があるので、そういう歴史あるものをちゃんと保全しながら、次代につなげていくことが重要だと思います。そして、これが小牧市民の誇りになっていくようになれば、中心市街地も何とかなっていくのではないかなというふうに思います。結構難しい話かとは思いますが、理想としてはそういうことを感じます。

【水野ファシリテーター】

名和委員、お願いします。

【名和委員】

今、大塚先生のお話、大変素晴らしいと思いますし、納得もしました。1点ちょっと分からないところっていうのが、素人ですので、ちょっと教えていただきたいんですが、犬山ですとか黒壁スクエアとか、いろいろな今お名前が出た中で、必ずしも中心市街地ですとか、ランドマーク1カ所だけが繁栄させるのではなく、1カ所から2カ所、3カ所、それぞれの点と点を結んで、それぞれの動線を結んだ結果、全体が繁栄してきたとか、そういうようなお話が結構多いように思ったんですね。

従って、じゃあ小牧で考えたときも、小牧市の中心市街地というピンポイントだけではなく、小牧山というランドマークだけではなく、それぞれを点で結んで、動線をどう考えるかっていうことを考えることが、これの近道につながるっていうことになるんでしょうか。

【水野ファシリテーター】

大塚委員、お願いします。

【大塚委員】

その点をどのぐらいの大きさの点にするか—ということがあります。駅と小牧山は結構離れているので、やはりそれを細かくつないでいく大きな点、小さな点、中間の点とか、いろいろあったりするのかなと思います。大きな点としては、いろいろと公的な施設もあったり、あるいは寺社や史跡とかがありますよね。小さな点としての役割として、さっき申し上げたような、店舗で、例えば信長だったら信長にちなんだ商品を、そういう1店逸品運動をやっているところがありますが、一つのテーマにちなんだ商品を店舗等に置いた小さい点をたくさんつくっていくことが、大きな点をつなぐ助けになるのではないかと思います。

【水野ファシリテーター】

その他、委員の皆さまからご意見等よろしいでしょうか。

鶴田委員、お願いします。

【鶴田委員】

区画整理とかで拡幅された道路のおかげで、商店街が廃れたとかっていうお話はよく聴く話で、今、大曽根もそうですね。発端がそうになってOZモールにしたんですけど、今もたぶんあんまりにぎわっているとは思えないんです。ただ、今回シンボルロードは、拡幅されておしまいかって、私はそうは思っていないくて、要はそれが拡幅することで、普通、商店街っていうのは、道路があって、そこは車の通らない道で、両側を行ったり来たりしながら行くっていう、それはもちろん理想です。犬山も都市計画道路を廃止して、道を歩けるように守ったから今があるというのはそうなんです。じゃあ、拡幅してしまったら終わりかって、そうではない例も例えば、彦根のキャッスルロードは、区画整理で広げましたけど、こっち側とこっち側の商店は別々になっちゃいました。でも、廃れているかといったら、ちゃんとお客さんが入っていてやっているんで、私はそういう状況の中で、逆に言えばしっかりした歩道ができたわけなので、その歩道に接しているところで頑張ってやり、あとこっちとこっちは、交差点で行き来しやすいようにしておけばいい。今小牧市が持っている道路空間をうまく上手に使いながら、先ほどからお話ししている心象距離を縮めるとか、所々通りに居場所をつくっていくとか、そういうことはできるんじゃないかなというふうに、やり方次第かなというふうに思っています。広げてしまった道はポジティブに捉えていけばいいんじゃないかなとそれしかないっていうのもあるんですけど、できなくはないと思っています。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

委員の皆さまからたくさんのご意見を頂戴いたしまして、ありがとうございました。

時間もそろそろ決められた時間になってまいりましたので、今回の「中心市街地の現況について」っていう議題については、この辺で締めさせていただきたいと思います。

また次回以降、具体的な話をさせていただきたいと存じます。

議題（3）その他

【水野ファシリテーター】

それでは続きまして、「議題（3）その他」を議題とさせていただきます。始めに事務局よりお願いいたします。

【都市計画課長】

事務局から1点、今回の会議についてであります。

本日、委員からいただきましたご意見を踏まえ、事務局で整理させていただき、次回、中心市街地の課題について、ご議論をお願いしたいと考えております。

回りの開催日時につきましては、2月頃を予定しております。改めてご連絡申し上げますのでよろしくお願い致します。以上であります。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。山下市長のほうからお願いします。

【山下市長】

今日は大変貴重なご意見皆さんから頂きまして、大変参考になりました。ありがとうございました。一応、今、第1回から4回取りあえず置いてありまして、今日は「現況」で第1、次回が「課題」といいますけど、今後どういう方向で話を進めていったらいいか、たぶんこれ事務局もいろいろと今から頭悩ませながらということだと思ふんです。もしその次の持ち方について何かご意見あれば、この際伺っておきたいかなというふうには思ふんですけれども、ご意見ございますか。

【大塚委員】

発言の機会を与えていただいてありがとうございます。次の進め方について、ちょっともやもやしてましたので。今日は、現況といっても、結構どうしていったらいいのかという先の話までさせていただきまして。次回、より具体的な話をとと言われてもなかなかできないかもしれません。議論の論点というか、こういうことについてはどうですかみたいなことで、具体的なテーマを提示していただき、それについてみんなが意見やアイデアを出し合い、こうなるといいですねというようなものが見えてくればいいのかと思います。そういう議論の仕方もあるかなとは思っています。

【水野ファシリテーター】

生田委員、お願いします。

【生田委員】

今日何度か、まちにある歴史的なものをというような発言があったので、次回にもしそれについてまた触れるような議論があるとすれば、プロットとして、どのようなものがどこにあるのかを示してほしい。まず神社とか、そういうしっかりと古いものっていうのと、それだけではなくて、まちの中で少し年代がたっていていいよというような、これは特段登録何かになっているわけでもなく、文化財というような価値でもないんだけど、まちの中のある種のポテンシャルになり得るような要素があれば、それも何かマップの中にプロットされて出てきたりすると、非常に議論がしやすいのかなっていう印象を持ちました。以上です。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。その他進め方等について、次回以降の委員の皆様のご意見がありましたら

たらお願いします。

【山下市長】

ありがとうございます。

進め方について事務局と私も話ししながら、今大塚先生から話があったテーマをしっかりと設けながら、議論しやすいようにということも工夫させていただきたい。それから今日ちょっと拡大図とか、もうちょっと分かりやすい地図、いろんなどういう資源があるのかということもなかったもので、そこまでの具体的な議論はしにくかったかなと思いますので、次はしたいと考えています。

【大塚委員】

それこそ町の中心に上街道がこう通ってみたいな地図があると、ここをじゃあどうしようとか、もっといろいろ言えていいのかもしれないですね。

【山下市長】

そうですね。ちょっとその辺りも資料を用意させていただきたいと思います。あと1点、私のほうから、できれば今後、特に専門の皆さんがたにお願いしたいんですけど、いろんな事例がありますよね。参考になる事例、先進事例とか、この辺りやっぱビフォーアフターじゃないですけど、今この町はこういう取り組みでこういう状況だよとか、今それぞれの今日実はお話の中にあったんですけど、もし参考になる事例というのがあれば、もう少し詳しい資料的なもので、もし頂けるなら大変ありがたいなというようなことをちょっと私としては思いました。お話では今いろいろと承るんですけど、ちょっとやっぱ写真とか、絵とかなないとイメージできないところがありますので、もしそういったご提案で、参考になるんじゃないかとかあれば、ぜひ頂けると助かるなというふうに思うんです。

お願いできますでしょうか。

【水野ファシリテーター】

ということでございますので、またよろしくお願ひしたいと思います。

その他、委員の皆さまから何かございますか。

無ければ、以上で、本日予定しておりました議題につきましては、全て終了しました。事務局に進行をお返ししたいと思います。円滑な会議進行にご協力いただきましてありがとうございます。

【都市政策部長】

長時間にわたりご議論いただきましてありがとうございました。

最後に次の進め方ということで、皆様からご意見をいただいた件につきましては、事務局で検討させていただいて、調整をとらせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

なお、本日の会議の会議録につきましては、作成次第、委員の皆さんに内容をご確認いただき、市のホームページなどで公開してまいりたいと考えております。

これをもって、第1回中心市街地グランドデザイン戦略会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。